

# バランスアルファ ペット通信 第13号



クリニック内は飼い主さんの気持ちをリラックスさせてくれる演出がそこそこ。



取材後、向後先生と。お忙しい中、ありがとうございました！

## ペットに寄り添う人

### \* 治る力を引き出す様々な選択肢

向後先生 当院では西洋医学だけでなく、鍼治療・漢方やホモトキシコロジー、パッチワーク、オゾン療法などに優しい自然療法も行っています。東洋医学では体全身をまず診るのですが、その中には「心」も含んでいます。体と心を両方診て、治療云々の前に、飼い主さんに正しい情報をわかりやすくお伝えするよう心がけています。基本的には「自分のペットだったらこうしてあげたいな」という内容を中心にして、その後複数の選択肢を飼い主さんに提示し、選んでもらうようにしています。

### ※ホリスティック療法とは？

ただ病気だけを治すのではなく、病気を起こす生き物の体を調整し、体全体を治してことにより病気を治していこうとする治療法。

### 次号は「“飼い主さん”に寄り添う」

“飼い主さんの心に寄り添う”ことで解決の糸口を見つけれることが多いと仰る向後先生。次号では、獣医になる前に心理学を学ばれていた向後先生がどのように飼い主さんの心に寄り添い治療されているのかお話を伺います！

### 飲用量の目安

病気や症状改善が目的の場合  
体重1kgにつき1mlを  
1日2～3回

健康維持が目的の場合  
体重1kgにつき1mlを  
1日1回

※左記の飲用量、飲用回数より多く与えても害はありません。バランスアルファをペットに飲ませている飼い主様のお話によると、病気や症状改善が目的の場合は、多めに与えた方がバランスアルファの効果は早い時期に実感できることが多いようです。

※ペットがそのままでは飲まない場合は、飲み水(塩素の入った水道水は避けて下さい)に加えるか、ペットフードに混ぜて与えても効果効能は変わりません。

※バランスアルファはどんな薬と併用しても副作用はありませんのでご安心下さい。(注意：60度以上に加熱することは避けて下さい)



ペットのすこやかな毎日のために。

無料サンプルをお試し頂けます



500ml 1本  
無料で進呈  
します!

☎ お電話 ☎ FAX

☎ 0120-76-5812

9時～17時 土日祝休  
050からはじまる電話番号からは  
03-3576-5811へ

💻 インターネット 📧 郵便 でもお申し込み頂けます!

株式会社高橋剛商会 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 2-16-4 <http://www.balance-alpha.com/jp/>



今月の  
テーマ

## ペットの梅雨対策 梅雨に注意したい5つのポイント

こんにちは。今年度より年4回にわたって、ペットの飼い主様向けに「バランスアルファペット通信」を発行することになりました。現在、「バランスアルファ」の無料サンプルをご請求される方の半数近くは、ペットの飼い主様です。もともとは人間用に作られた「バランスアルファ」ですが、100%自然農法の天然素材、完全無添加にこだわった商品であることの安心感とその高い効果が、ペットの健康を真剣に考える獣医師様、ペットショップ様、飼い主様の口コミによって、その輪を広げ続けています。それと同時に、ペットを取り巻く環境も時代とともに様々に変化しています。ペットの高齢化に伴い、生活習慣病、悪性腫瘍、免疫疾患、アレルギーなども増加傾向にあるようです。飼い主様にとって、ペットは大切な家族の一員。その大切な存在であるペットがすこやかでしあわせな生活を送ることができるように、高橋剛商会も微力ながらお手伝いさせて頂けたらと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします！

さて、新緑のさわやかな季節が終わると、だんだんと湿気の多い梅雨がやってきます。ジメジメした空気、どんより灰色の空、梅雨から夏にかけては、私たち人間だけでなく、ペットたちにとっても辛い季節。ペットが元気に過ごすための、梅雨に気をつけたいポイントをまとめてみました。

## 皮膚トラブル対策

被毛に覆われている動物の皮膚は、菌が繁殖しやすい環境になっています。特に気温と湿度が上がる梅雨の時期は注意が必要です。細菌・ダニによる皮膚炎、ノミによるアレルギー症状を予防するために、こまめなケアを心がけたいものです。

散歩後は、足の裏、指の間、おしり周り、脇の下、内またをきれいにふき取りましょう。雨の日の散歩後にはタオルドライだけでなく、ドライヤーを使ってしっかり乾かしてあげましょう。このような見えない部分は特に湿度が高くなりやすいため、細菌が繁殖し、発疹・脱毛などの皮膚トラブルが起きやすいのです。特に足の裏は泥汚れなどで菌が付きやすくなるので、爪の間も清潔に保ちましょう。

また、耳の中も菌が繁殖しやすいので、イヤークリーナーなどで清潔にしておきましょう。特に耳の垂れている犬猫は、通気性が悪くなり、外耳炎になることが多い傾向にあります。頻りに耳を掻く、頭を振るなど、耳に違和感を感じている様子があったら、早めに獣医さんに相談しましょう。

## 食中毒対策

湿度の高くなる梅雨の時期にまず気をつけなければいけないのが食べ物。開封後、時間が経過したペットフード、生食用の肉・魚、不衛生な食器などによって、細菌が繁殖し、食中毒を起こすことがあります。小さめのパッケージのペットフードなど、開封後できるだけ早く使いきれものを用意したいものです。食べ残したフード、食後の食器は早めに片付けて常に清潔な状態を保ち、使いかけのフードはしっかりと封をして、冷蔵所や冷蔵庫に保存しましょう。生・半生のフードは特に傷みやすいので注意が必要です。また、食べカスの入った水は雑菌が繁殖しやすいので、水は普段よりもこまめに交換し、新鮮な水をいつでも飲めるようにしておきましょう。

## 飼育環境を清潔に

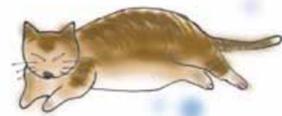
ジメジメした梅雨は、ダニやカビ、細菌などが繁殖しやすい季節です。天気の良い日にハウスやペット用ベッドなどを洗濯・天日干しましょう。首輪やリードなど普段よく使うものも清潔に。ケージやマット類は掃除機を使い、汚れや被毛、害虫を取り除きます。清潔な環境は飼い主さんやペットにとっても気持ちのいいものです。清潔で快適な環境づくりを工夫しましょう。

## 害虫対策

梅雨はノミ、ダニ、蚊などの害虫の動きが活発になる時期。寄生されるとかゆみや赤みなどの皮膚トラブルだけでなく、皮膚病の原因や、他の病気を媒介し、場合によっては命に関わるような状況を生じさせることも。ペット用の防虫スプレーやウエアなどを活用したり、動物病院で注射やお薬を出してもらうなど、害虫が寄生しないように予防することが大切です。また、毎日スキンシップを兼ねて、皮膚の様子をよく見てあげましょう。ノミやダニの寄生が見られたら、治療と駆除・今後の予防のためにも動物病院に相談しましょう。

ノミ・ダニは気温が13℃を超えると活動を始めると言われてます。もし家の中にノミやダニがいる場合、1年中活動していることとなります。ノミがペットの身体に寄生すると、かゆみのために身体を引っかいたり噛んだりし、皮膚炎を起こします。また、ノミに含まれる物質によりアレルギーを起こすことも。さらにノミが大量に寄生すれば、吸血により貧血を起こすこともあります。

そして、特に注意すべきなのが、マダニです。マダニはペットだけでなく、人間にも感染する病気を媒介します。マダニはどのような気候・場所にも適応し、日本全国、草むらがあるところならどこでも潜んでいます。マダニを見つけたら、無理に取らずに動物病院(人間の場合は皮膚科)で取ってもらいましょう。無理に取るとうずると、頭や口先が刺さったまま残ってしまったり、卵が飛び散ったりするので、気をつけましょう。



梅雨は様々な体調不良や病気などが発生しやすい時期ですが、そのほとんどは日常のちょっとした工夫で予防できます。梅雨の時期は、できるだけ「乾燥」・「清潔」を保ち、飼い主さんもペットも、すこやかに梅雨を乗り切りましょう。



## 「命」に寄り添う ～こうご動物病院の取り組みから～ 第1回 “治らない” 子に寄り添う

### ＊ホリスティック医療を取り入れたきっかけ

向後先生 私がホリスティック医療に興味を持ったのは、当時飼っていた猫がステロイドでしか治療方法がないような、特殊な免疫疾患にかかった時からでした。当時、私は大学卒業後3,4年くらいで、獣医をやっており、一般的な西洋医学をある程度理解できた頃だったのですが、西洋医学だけだと限界が多いなど感じつつある所に、自分の猫が西洋医学ではとても治らない病気になってしまったのです。その頃から、西洋医学の他にもっと方法があるんじゃないかと探し始めました。初めは鍼灸を学びました。私の妹が人間の鍼灸をやっているの、まず妹に教わったのと、当時勤めていたわんにゃんワールド多摩の先生がすでに動物の鍼灸をやられていたので、そこから教わりました。その後は獣医専用の鍼灸の学校やセミナーなどで学んだのですが、当時勤めていたわんにゃんワールドで、実際試してみると「こんなに効果があるんだ」と分かり、鍼灸の力を実感しました。

### 今、実際に患者さんを診ていて、ホリスティック医療と西洋医学だとどちらの割合が高いのでしょうか？

向後先生 はっきりとした割合は分からないのですが、急性疾患は西洋医学で治すことが多いですが、慢性的な病気の場合は西洋医学をなるべく使わずにやっています。年々ホリスティックを使う割合は増えてきていますし、飼い主さんがホリスティックを求める割合も確実に増えてきています。しかし残念ながら、ホリスティック医療を取り入れている動物病院は、日本にはまだ少ないので当院に遠方からいらっしゃる患者さんもいます。山梨県や長野県からいらっしゃる方もいました。ホリスティック医療を体系立てた教育システム自体はまだ獣医師の世界にはないので、興味がある先生は自分で勉強してやっていくという感じですね。

### ＊病気とうまくお付き合いしていくというスタンス

慢性的な病気の場合「治す」というゴールがない場合もありますよね。ゴールがない世界で治療にあたる時の先生の目標感は何ですか？

向後先生 「治す」というより「病気とうまくお付き合いしていく」ということ、それから、ペットが慢性疾患を持っていると飼い主さんの心が疲れてしまうので、なるべくそれに寄り添えるようにしていきたいですね。限られた診察時間で飼い主さんやペットのすべてのストレスや精神状態を引き受けることは難しいので、当院では「こころの相談室」を設けて専門の心理カウンセラーさんにお話ししてもらっています。飼い主さんが精神的に病むことはペットにとってもあまり良くないので、考えすぎないように促すこともあります。



穏やかな笑顔と包容力を感じさせる語り口。これなら不安を抱えた飼い主さんもいろいろ相談したくなりますね。



通りに面したクリニックは明るくて入り易い。オープンカフェのような待合室は、クリニックにいることを忘れさせてくれます。

